

『フェンスレス』オンライン版(第二号) ● 特別付録 資料

---

総目次 『北緯五十度』(北緯五十度社)



〔後記〕

〔裏表紙〕

\*1 奥付なし。発行年月日は鳥井省三『釧路文学運動史（昭和篇）』（一九六九年）による。

### 第四号 昭和五年八月頃発行\*

〔表紙〕

〔無題〕（\*版画）

〔扉〕

馬市の話（\*詩）

君に送る詩（\*詩）

叩き大工の記歌\*2（\*詩）

抗弁（\*評論）

俺は言ふ（\*評論）

叩き大工の詩 いノ一／いノ二（\*詩）

著作り（\*詩）

山越し／それに来たんだ／同志へのたより（\*詩）

〔後記〕

〔奥付〕

〔裏表紙〕

\*1 奥付に発行年月日記載なし。前掲、鳥井『釧路文学運動史（昭和篇）』による。

\*2 詩本文に「記歌」に「うた」とルビあり。

### 第五号 昭和五年十一月十五日発行

〔表紙〕

〔扉〕

叩き大工の詩 ろノ一／にノ三（\*詩）

日高山道の友に（\*詩）

目覚メ（\*詩）

リアル — 高村先生に捧ぐ—（\*詩）

阿寒よ 燃えろ（\*評論）

僕達への断片的覚帳（\*評論）

無名の人々（\*詩）

無題詩／覚え書詩一つ／働きつゝある失業者

／「吾等何をなすべきか」（\*詩）

木立／呼び声／代用教員の詩（\*詩）

鉄筆のあとに（\*後記）

〔広告〕（\*更科源藏詩集『種薯』）

〔広告〕（\*竹内てるよ『曙の手紙』）

〔裏表紙〕

〔奥付〕

### 第六号 昭和五年十二月二十日発行

〔表紙〕

猪狩満直

24 22

3 1

4 3

6 8

8 10

11 15

12 17

15 19

18 23

20 27

24 28

28 29

31 31

31 31

32 31

31 31

31 31

32 31

〔扉〕

村の話(一) (\*詩)

猪狩満直

4  
5

どん底の詩(一)(二) (\*詩)

中島葉那子

7  
10

叩き大工の詩 ほノ一 / その九 / にノ四 (\*詩)

葛西暢吉

11  
13

敵は本能寺に在り——再び高山くんへ (\*評論)

猪狩満直

14  
22

古譚よ 燃えろ (\*評論)

眞壁仁

22  
27

がまん (\*詩)

渡邊茂

28  
29

ある時 (\*詩)

草野心平

30  
31

古譚の学校 (\*詩)

更科源蔵

32  
39

セツコの詩 (I) / セツコの詩 (II) / ヨス

坊の詩 / 平の詩 (I) / 平の詩 (II) / 平の

詩 (III) / 葡萄の種 / 風 / ナンコの詩 / クニ

坊の綴方 / 赤切 / 出稼 (つこ)

後記

鉄筆言

〔奥付〕

〔裏表紙〕

猪狩満直

更科源蔵

40  
41

41  
42

44

第七輯 昭和六年五月一日発行

〔表紙〕

〔扉・目次〕

小森盛君の『虚無観』に就いて (\*評論)

出稼の話 (\*詩)

詩 一篇 (\*詩)

坂本七郎

中島葉那子

竹内てるよ

1

3

4  
5

6

7

村の話(二) (\*詩)

雪の日 (\*詩)

叩き大工の詩 への二 / への三 (\*詩)

悲劇 (\*詩)

古譚の学校 (\*詩)

ヨス坊の詩 (三) / ステツ子の詩 / 綴方 (二)

綴方 (三) / 泥鰯すくひ / 星座 / ヨス坊の

詩 (III) / 理科の実験 / マモの詩 / 猫

背中 (\*詩)

父 (\*詩)

最上郡大蔵村 (\*詩)

升形駅 / 原つば / 最上川 (一) / 渡し / 村

(二) / 昌ちゃん / 村 (二) / 殿様 / 美人淘

次 / 最上川 (二) / 恋愛の一章

〔広告〕 (\*鈴木勝『農民民謡集』 / 鈴木致一『詩集 葱』)

詩集「種薯」の著者 更科源蔵君に就いて (\*評論)

後記

〔奥付〕

〔裏表紙〕

猪狩満直

坂本七郎

葛西暢吉

岩瀬正雄

草野心平

渡邊茂

眞壁仁

渡邊茂

眞壁仁

眞壁仁

眞壁仁

眞壁仁

眞壁仁

眞壁仁

眞壁仁

眞壁仁

眞壁仁

眞壁仁

26

27

29

30

30

32

32

夜 1〜6 (\*詩)  
窓 (一) (\*詩)  
渡邊茂 3  
猪狩満直 9

眞壁仁君の『街の百姓』に寄せる (\*評論)  
中西悟堂 11  
養豚手帖 1〜8 (\*詩)  
土田樞夫 14  
更科源蔵 21

カラス 1〜5 (\*詩)  
更科源蔵 24  
村の出来事 (\*詩)  
更科葉那子 25  
十一月の日記断片  
更科源蔵 26  
後記 28  
受贈詩書 29  
30

〔奥付〕  
32  
〔裏表紙〕

第九輯 昭和八年十二月二十五日発行\*

〔表紙〕  
梨畑と混沌さん／妻村に／秋 (\*詩)  
猪狩満直 1  
北国夜話／風 (\*詩)  
渡邊茂 3  
コタン (\*詩)  
更科葉那子 4  
仕事が終わつて (\*詩)  
加藤愛夫 5  
子供の詩 (\*詩)  
眞壁仁 5  
冬 十二月／一月／二月／三月 (\*詩)  
更科源蔵 6  
〔広告〕 (\*猪狩満直詩集『秋の通信』)  
眞壁仁 7  
收穫 (猪狩君の近業について) (\*評論)  
眞壁仁 8  
「秋の通信」に寄せる (\*評論)  
更科源蔵 9  
男の首 (\*彫塑)  
松田利秋 (一)

炭で描いた自画像 (\*随筆)  
松田利勝 11  
春を待つ手紙 (二) (\*随筆)  
茂木幹 12  
後記 19  
〔奥付〕  
更科 20  
〔裏表紙〕  
22

\*1 本号より活版印刷となる(最終号まで)。ノンブルあり。ただしノ  
ンブルのない表紙の表裏(表1・2)は便宜的に i・ii と数える。

第拾輯 昭和九年四月一日発行

〔表紙〕  
鉄屑輯 (\*評論)  
坂本七郎 1  
「北緯五十度」 「屨」の諸兄 (\*随筆)  
高田博厚 3  
マダムシユザンヌ (\*随筆)  
高田博厚 6  
蔵王の吹雪／門づけをしなない彼／秋雨 (花嫁の  
詩・三) (\*詩)  
眞壁仁 6  
母 (\*詩)  
更科葉那子 8  
旅の歌 1〜5 (\*詩)  
渡邊茂 8  
コタンにて (\*油彩画)  
茂木幹 (一)  
コタン有情 (\*随筆)  
茂木幹 11  
炭で書いた自画像 (二) (\*随筆)  
松田利勝 13  
花屋と私 (\*随筆)  
猪狩満直 14  
復活号を読んで (\*随筆)  
眞壁仁 18  
手紙 (\*随筆)  
猪狩満直 19  
後記 19  
更科 19

受贈書

〔奥付〕

〔裏表紙〕

22 20 20

昭和九年夏季版 昭和九年十月十日発行（通巻11号）

〔表紙〕

〔目次〕 \*1

土着の詩に就て（\*評論）

秋の通信を読む（\*評論）

秋の通信をうけて（\*感想）

手紙（\*感想）

『秋の通信』と猪狩君（\*感想）

『秋の通信』に（\*感想）

手紙（\*感想）

渡邊熊吉／稲を扱いた夜／苗代のびて（\*詩）

郭公（\*詩）

妻に与ふ（民謡）

坐棺（\*詩）

コタン／乾みみず 1・2（\*詩）

緑と雪と（\*評論）

二つの自然詩集（\*評論）

詩書断想（\*評論）

身辺記

後記

眞壁仁 \*1

草野心平

竹内てるよ

加藤愛夫

鈴木勝

渡邊茂

萩原恭次郎

眞壁仁

加藤愛夫

鈴木勝

金井新作

更科源蔵

坂本七郎

眞壁仁

更科源蔵

眞壁

更科

iii i

1 6

7 15

15 17

17 19

20 22

23 25

25 26

27 29

29 30

30 31

31 32

33 38

33 42

43 47

48 49

49 50

〔広告〕（\*『宮沢賢治全集』）

〔奥付〕

〔裏表紙〕

53 51 50

\*1 目次裏のページ（見開き右）からノンプル「1」が始まるため、便宜的に目次頁をiiiとする。

昭和十年春季版 昭和十年六月一日発行（通巻12号） \*1

〔表紙〕

〔目次〕

第六夕暮の詩（\*詩）

四辺（\*詩）

むら（\*詩）

野良（同題ノ三）（\*詩）

人間事（\*感想）

炭で描いた自画像（三）（\*感想）

手紙（\*感想）

生活のその折々に／早春譜（\*短歌十三首）

晩秋／病床（\*詩）

隣／穴（\*詩）

雨催ひ（\*詩）

クルミのおもちや（\*詩）

〔後記〕

〔奥付〕

〔広告〕 \*2

1

3

4

9

10

12

14

15

16

17

18

20

22

24

27

28

29

\*1

\* 1 この号ノンブルなし。

\* 2 表3 (裏表紙裏)、「詩歌書の印刷を御引受け致します 北緯五十度印刷部」とある。

北緯五十度社版『北緯五十度』について

アナキズム系詩雑誌『北緯五十度』は、北海道弟子屈村を拠点とする詩人更科源蔵が中心となって刊行された。創刊号から第八号まで増写版、第九号から第十二号(昭和十年春季版)は活版印刷である。

中心メンバーは、葛西暢吉(釧路)、渡邊茂(同)、猪狩満直(福島)、眞壁仁(山形)、中島葉那子(夕張↓弟子屈、一九三一年更科と結婚)。本誌は、アナキズムの傾向を持つ多数の詩雑誌の中でも最北の地で刊行されていたこと、また、秋山清・小野十三郎らの第二次『弾道』と激しい論争を交わしたことも知られているが、現物の参看が困難な雑誌であり、『プロレタリア詩雑誌総覧』(戦旗復刻版刊行会、一九八二年)には、伊藤和旧蔵の四冊分(四・五・七・八)の細目が採られているにすぎない。

ただし、全十二冊であるという指摘も含めて、提出されている論考は皆無ではない(巻末文献リストを参照のこと)。

\*

創刊号には奥付がないが、第二号後記の記述により昭和五年一月二十日に発行されたものと思われる。第二号以降も奥付の体裁は不統一であるため、以下にそのまま書き写す。

第二号「一九三〇・二・二五、印刷発行／編輯印刷発行人 釧路国弟子屈村字熊牛原野 更科源蔵／発行所 釧路国弟子屈村字熊牛原野 更科方 北緯五十度社」。

第三号、奥付なし。

第四号「編輯印刷兼発行者 釧路市西幣舞町六八 葛西暢吉／発行所 釧路市西幣舞町六八 北緯五十度社。刊行日付なし」。

第五号「一九三〇・一・一五／釧路市西幣舞町六八 葛西暢吉方／発行所 北緯五十度社」。

第六号「第六号 北緯五〇度／一九三〇・一・二〇、刊行／発行所 釧路市西幣舞町六八 葛西方／北緯五十度社」。

第七号「北緯五十度 第七号／昭和六年四月三十一日印刷納本／昭和六年五月一日発行／編輯印刷兼発行者 釧路市西幣舞町六八 葛西暢吉／発行所 釧路市西幣舞町六八 北緯五十度社」。

第八号「北緯五十度 第八号／昭和七年十二月二十五日印刷／昭和八年一月一日発行／編輯発行者 釧路国弟子屈村字熊牛原野 更科源蔵／印刷者 渡邊茂」。

九号「北緯五十度 定価十銭／昭和八年十二月二十日印刷／昭和八年十二月二十五日発行／編輯兼発行者 釧路国クツチャロ湖畔コタン 更科源蔵／印刷者 東京市淀橋区柏木一ノ一八 安田頼太郎／発行所 釧路国クツチャロ湖畔コタン 北緯五十度社」。

拾号「北緯五十度 定価十銭／昭和九年三月二十五日印刷／昭和九年四月一日発行／編輯兼発行者 釧路国クツチャロ湖畔コタン 更科源蔵／印刷者 東京市淀橋区柏木一ノ一八 安田頼太郎／発

行所 釧路国クツチャロ湖畔コタン 北緯五十度社」。

昭和九年夏季版「十月二日納本／十月十日発行／編輯印刷兼発行人 更科源蔵／印刷所 釧路国弟子屈村 北緯50度印刷部／発行所 釧路国弟子屈 北緯五十度」。

昭和十年春季版「昭和十年五月二十五日納本／昭和十年六月一日発行／編輯印刷兼発行人 更科源蔵／印刷所 釧路国弟子屈温泉 北緯五十度印刷部／北緯五十度社」。

\*

本誌の前身には、一九二五年に葛西、渡邊が出した雑誌『銅鑼』があり、一九二七年には更科が加わって『港町』さらにそれを受け継いだ『至上律』があった。猪狩満直は北海道阿寒郡に一時期入植したが福島県の人であり、眞壁仁は山形市に拠点を置いていた。『弾道』との論争時に『北緯五十度』を強く支持した坂本七郎も本州の各地で技術系の労働者として働きつつ詩を書いていた。誌面からは草野心平や中西悟堂らの名前も垣間見える。こうした点から言えば、『北緯五十度』は「北方」のアナキズム系詩雑誌として稀少であるというよりも、詩人たちの広域的なネットワークが地方でこそ豊かな実を結ぶという意味で、アナキズム詩雑誌の本流を示したものといえよう。

開拓地・港湾都市・アイヌ集落<sup>アイヌ</sup>など、近代化日本の諸矛盾が交叉する地「釧路国」を『北緯五十度』は多様に表現し続けた。前身を含めると、断続的ながらおよそ十年にわたって続けられた雑誌刊行の努力は並大抵の苦勞ではない。秋山清によって戦後も厳しく批判されているが、彼らの方法意識については別に分析を必要とする。少なくとも、こうした地方のアナキ系詩誌の実態は十分に解明されているとはいいがたい。

なお北緯五十度社は、雑誌掲載作品を中心とするアンソロジー『北緯五十度詩集』を刊行している。奥付には「一千九百三十一年版北緯五十度詩集／昭和六年十一月二十五日発行」とあり、「著作兼印刷発行人」は「山形市宮町二〇五一番地 眞壁仁」、「刊行所」は「北海道釧路国弟子屈村 北緯五十度社」となっている。この詩集は、戦旗復刻版刊行会によって一九八三年に復刻されていて、『プロレタリア詩雑誌総覧』にもその細目が採られているので、ここには掲載順にその概要のみ記す。

眞壁 仁 「蚕の詩」（10篇）、「祖母の詩」（4篇）

中島菜那子 「馬鈴薯階級の詩」（11篇）

渡邊 茂 「飲み仲間の詩」（5篇）

葛西暢吉 「叩き大工の詩」（16篇）

猪狩満直 「炭坑長屋物語」（10篇）、「非常汽笛」（6篇）

更科源蔵 「コタンの学校」（29篇）

\*

主な参考文献には以下のものがある。松永伍一『日本農民詩史』（一九六七—七〇年）、鳥井省三ほか『釧路文学運動史』（一九六四—七八年）、財団法人北海道文学館編『開館五周年記念特別企画展『北緯五十度』の詩人たち 更科源蔵と豊かな交流圏』（二〇〇〇年）、秋山清『秋山清著作集』第十一巻（二〇〇六年）。

北海道立文学館所蔵複写本を参看した。

（村田裕和）